

第2回 樫原市総合教育会議 議事録

日時：令和8年2月24日（火）

13時30分～15時30分

場所：大和信用金庫八木支店 3階 第1会議室

<出席者>

○構成員：亀田市長、吉田教育長、

三橋委員（教育長職務代理者）、竹内委員、吉岡委員、花田委員

○市

吉田副市長、加護理事兼総務部長併教育委員会事務局理事

【企画戦略部】

若森企画戦略部長、木南企画戦略部副部長、長谷川企画政策課長、友井企画政策課課長補佐、大西企画政策課企画係長、山風呂企画政策課主査、奥野企画政策課主査

【教育委員会】

栗原教育委員会事務局長、村井田教育委員会事務局副局長併こども部副部長、河野教育委員会事務局副局長、広瀬教育委員会事務局副局長兼子ども総合支援センター長、樋上教育総務課長、寺山教育総務課課長補佐、鶴田学校教育課長、宮田人権・地域教育課長、西浦生涯学習課長、浅田図書館長、高井中央公民館長、藤井こども発達支援課長

【こども部】

池田こども部長、清水こども部副部長、吉川こども部副部長兼こども政策課長、岩本こども未来課長

※傍聴なし

1. 開会

2. 市長挨拶

委員の皆様方におかれましては、大変お忙しい中、令和7年度第2回総合教育会議にご出席賜りありがとうございます。また、平素からの様々な角度からのご支援・ご協力に対しましても、改めてこの場をお借りして御礼申し上げたいと思います。

今回の議題は、「第3期樫原市教育大綱」のパブリックコメントの結果と「第3期樫原市教育大綱アクションプラン」に関してとなります。「第3期樫原市教育大綱」については、2回の懇話会において内容を議論していただき、昨年12月から今年の1月にかけて実施

いたしましたパブリックコメントの結果報告となります。「第3期檜原市教育大綱アクションプラン」については、ご議論いただいた「第3期檜原市教育大綱」を具体的にどのように実行していくのかについての案を作成しましたので、その内容についてご意見を伺いたいと思っております。

「第3期檜原市教育大綱」については、この半年間の議論を踏まえて策定させていただきましたが、今回の総合教育会議で策定を終えることとなります。委員の皆さまのご理解とご協力のもと策定をさせていただいたことに、深く感謝を申し上げます。来年度からこの大綱に基づき教育施策を推進していくこととなりますので、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

総合教育会議は、市長が教育の振興を図るための施策について、教育委員会と協議をする場であります。本日もいっぱい時間の時間配分になっておりますので、様々な意見交換をするという時間があまりありません。これは私自身も反省しておりますけれども、来年度はぜひフリートークで色々なお話ができるような機会を作らせていただければと考えております。いつも申し上げますが、その分野に長けた教育委員の皆様方で構成していただいている檜原市教育委員会ですので、非常に良い環境にあると思っております。現在の教育委員会事務局の方々にも当然手一杯の中で頑張っていると思っておりますけれども、個性豊かな教育委員の皆様方のご意見を聞きながら、いかに現場に落とし込んでいけるかという作業をさらに追い求めていきたいと考えております。

これは何のためにやっているのかということ、子どもの教育環境の充実ということになってまいります。私たち大人が、いかに子どもたちの環境をしっかりと整えられるのかということです。我々の今の固定概念にとらわれず、この発展の早い今の時代に合わせた50年先は一体どうなっているのかということができる限り想像しながら、教育現場に落とし込んでいきたいと思っております。何度も繰り返しますが、そういった時代の流れに非常に敏感な教育委員の皆様で構成されていると思っておりますし、総合的にしっかりと検討しながら、できることから着実に実行に移していくということもさせていただきたいので、そのためにももっともっとお話をする機会を作りたいと思っております。本日は限られた時間ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします

3. 出席委員紹介

事務局より紹介

4. 議長の指名

檜原市総合教育会議設置要綱第4条第1項により、市長を議長に指名

【市長】

会議の進行に対しましてのご協力をよろしくお願い申し上げます。

本日の会議は、会議録を作成させていただき、樫原市総合教育会議設置要綱第7条により公開いたします。

5. 議題①「第3期樫原市教育大綱のパブリックコメント結果について」

それでは議題に入ります。まずは、議題①「第3期樫原市教育大綱のパブリックコメント結果について」、事務局より説明をお願いします。

【事務局】

資料1～4について説明

【市長】

ありがとうございました。昨年12月8日から今年1月9日までの約1か月間、第3期教育大綱案のパブリックコメントを実施したということでございます。その結果につきまして、事務局から説明をしていただきました。10名の方から44件のご意見をいただいたとのことで、そこから1件の修正を加えたということです。委員の皆様、ご質問やご意見はございますか。では、竹内委員をお願いします。

【竹内委員】

このパブリックコメントの回答方法について、いただいた資料には、オンラインや書面、持参等の記載が全くなかったのですが、どのような割合でこの結果を書いておられるのか、分かれば教えていただきたいです。

【事務局】

パブリックコメントの回答方法の割合について、統計的には取っておりませんが、概ね1割、5、6件ぐらいが書面、残り40件弱がオンラインであったかと思えます。

【竹内委員】

そういうふうな記載があれば、今どのような傾向の人たちがこのパブリックコメントを書いているのかということが分かるのかなと思いました。ありがとうございます。

【市長】

オンラインでの申請が多いということは、どういう傾向と言えるでしょうか。

【竹内委員】

年齢も回答のところに書かれていないので分かりませんが、せっかくのパブリックなので、より多くの人に答えていただきたいです。今回のコメントの中にもフォームに関する意見が書かれていたと思います。そういうところを改善してよりたくさんの人に、この10名というのはどうなのかなと思いますので、そのためにも今現状はどうなのかなというので伺わせていただきました。

【市長】

はい、分かりました。ありがとうございます。他にございませんか。三橋委員、よろしくお願いします。

【三橋委員】

最初に説明のあった画一的な教育の部分について、何をもってこの画一的な教育と捉えているのでしょうか。これは教育大綱に記載をされているのでしょうか。このパブリックコメントにある内容と少し違うのではないかと感じたのでお聞きします。

【事務局】

この部分について、画一的というか通常の授業と違いますか、皆さんが一堂に座って授業を受けていただくような形の教育を想定させていただいております。

【三橋委員】

はい、わかりました。現代の指導要領、学習指導要領の流れでは、子どもそれぞれの個性に応じる教育をするという方向だと思えます。この変更後の文章だと、「画一的な教育のみに対応」ですから、のみではないが、画一的な教育はやっぱりするという意味になると思えます。大きな流れとして、画一的な教育はもうなるべくやめましょと、それぞれの子に応じた指導をましょという流れだと思うので質問をさせていただきました。今回回答いただいた内容でしたら大丈夫かなと理解できました。

【市長】

ありがとうございます。吉岡委員、お願いします。

【吉岡委員】

このパブリックコメントの実施主体は企画政策課だと思いますが、回答のところに「アクションプラン等で表現してまいりたいと考えております」と記載があります。アクションプランは教育委員会の話かと思いますが、この回答はそれぞれの課とは話ができた上で書かれているのでしょうか。

【事務局】

こちらのパブリックコメントの回答につきましては、教育委員会事務局側と調整させていただいた上での回答となっております。

【吉岡委員】

ありがとうございます。

【市長】

花田委員、お願いします。

【花田委員】

こういうパブリックコメントの内容を見て、教育大綱は市民の皆さんに分かってもらいやすい言葉を選ばないと伝わらないというか、パブリックコメントでも具体的に書いてほしいという意見もありました。それぞれ求めていることは違うので、どうしても発信する側としては12万人にとって分かりやすい言葉で作成するため、曖昧な表現になる部分があるのは正直仕方がないことかなと思っています。専門的な用語については、ちょっと補足もあっていいのかなと思いますが、表現の仕方がそれぞれの課でバラバラなので、テレビ局とかでよくある、50%この言葉使いましょう、40%この言葉使いましょうという言葉の使い分けや、絶対使ってはいけない放送禁止用語みたいなものもあります。そんな風に、どのような言葉で記載するか基準をある程度まとめてもいいのではないかと思いました。このパブリックコメントを見て結構共感できる部分がありましたが、やはりこうになってしまうのはしょうがないのかなという感想があります

【市長】

おっしゃるとおりだと思います。100人見て100人に理解していただくということはなかなか難しいので、色々意見はあるだろうと思いますが、先ほど言われたような全庁的に使っていい表現あるいは避けたい表現みたいなことの何かルールはありましたっけ。

【事務局】

使う言葉は、時代や社会の変化に応じて当然変わっていくものだと思いますので、見直していく時にその都度調べて書いていくということになります。

【市長】

全庁的に使うような言葉はできるだけ共有できたらいいんですけどね。こっちではこう

いう言い方しているけれども、こっちでは違う言い方しているというように、同じことを表現するのに言い方が違うというのはあまりよろしくないのかなと思います。全てをピッチャと合わせるのは難しいかもしれませんが、その中でもここは大事だという表現の仕方は共有しておくべきものではあるのかもしれませんが。貴重なご意見ありがとうございます。

他にご意見はありませんか。はい、吉岡委員。

【吉岡委員】

番号16の件について、もうこれはパブリックコメントの回答として「修正します」と言い切っていますよね。これはすみません、この後何を議論するのでしょうか。

【事務局】

今回は、パブリックコメントに対する回答は報告としてこのように策定させていただきたいというふうに考えております。

【吉岡委員】

そこに対しての意見はもう言えないということでもいいですか。例えば、「のみに頼らず」を「のみならず」に変更した方がいいとか、そういった意見は言えないということですね。もう企画政策課の方でこの回答を市のホームページに出しているんですよね。

【事務局】

既に修正しますと出させていただいております。

【市長】

はい、これはもう既にホームページ上にアップされている内容であるということなので、意見を出した人は「のみに頼らずに」変更してくれたんだなと理解をしておられることになり、ちょっと順序としてはどうなのかなというのは思いますね。今日議論してから出せば良かったのかもしれませんがね。タイミング的にそれが難しければ、この会議にもう少し早く開催した方が良かったかもしれません。

【事務局】

このパブリックコメントへの回答は、市の見解として出すものということでございます。もちろん市の見解を出す際には企画政策課と教育委員会事務局とでやり取りした上で出させていただいたということでございますので、市としてはこの見解を出したというご報告ということでご理解いただければと思います。

【市長】

あの今日の時点ではそれで分かりますが、これはやはり順序がおかしいのではないかと私も思うわけです。だから今日の時点ではもう過去に戻れないので、「申し訳ないです、報告になります」ですが、これに限らず、今後こういう時にはどうするかという考えはありますか。今日の部分はもう仕方がないです。

【事務局】

今後は、「内容を検討します」と記載するなどして、委員さんに協議いただけるような内容に変えさせていただければと思います。今回はこのような形でさせていただいて申し訳ございません。

【市長】

ここはちょっと議論の場にならないことになってしまいますよね。このパブリックコメント見てください、もうこうしましたので報告させていただきますということです。だからこのパブリックコメントの内容に対して、教育委員さんからの意見をいただくという議論の場には全くならないということなので、そこはちょっと気をつけて、これからも進めていく時には工夫した方が良くと思います。

【吉岡部長】

企画政策課が主導なので、それで行きますって言うのであれば別に問題はないです。その後の①の確認部分が何をすべきなのかというところを逆に言いたくなくなってしまうので、それだったら変えますと言っているにもかかわらず、その後他のところを見るのかということになってしまうので、そこを進め方としてお教えていただければ大丈夫です。

【市長】

はい、ありがとうございます。他にございませんか。はい、それでは色々のご意見をいただきましたので、参考にできるところはぜひ反映していただけたらというふうに思います。それでは、この教育大綱案については完成とさせていただき、3月議会にて市議会に報告をさせていただきたいと思います。ありがとうございます。よろしく願いをいたします

6. 議題②「第3期榎原市教育大綱アクションプラン案について」

【市長】

続きまして、議題②「第3期教育大綱アクションプラン案について」事務局より説明をお願いします。

【事務局】

資料5について説明

【市長】

資料5のアクションプラン案について、方針ずつに区切りますので、ご質問やご意見のある委員さんは、事業計画番号をおっしゃっていただき、コメントをお願いします。ご質問やご意見に対して、必要に応じて担当課から回答をお願いします。委員の皆さまについては、「ここは改善の余地がある」「こんな視点もある」ということでも結構ですし、分かりにくいところや、もう少し詳しく聞きたいということでも結構です。

まず、1ページの事業計画10番から2ページの事業計画50番までで、委員の皆さまご質問ご意見ございますか。三橋委員、お願いします。

【三橋委員】

よろしくをお願いします。大きく2点あります。まず1点目は、事業計画10番と20番について、それぞれの評価指標が、10番は「感じている割合」、20番は「支援の満足度」とあります。誰がそう感じている割合なのか、誰の満足度なのか、それぞれ書いた方がよいと思います。

【岩本こども未来課長】

どちらも職員に関することなのですが、委員がおっしゃるとおり主語が抜けておりますので、分かるように記載させていただきます。

【三橋委員】

ありがとうございます。続いて、事業計画40番について、これは就学前と小学校との連携なんですけれども、評価指標が幼稚園側からの評価指標になっていると思いますが、連携ですので、小学校側からの何らかの評価指標というものが必要なのではないかなと思います。就学前側と小学校側の両方が必要ではないでしょうか。

【岩本こども未来課長】

就学前という部類にあったので、幼稚園保育所という就学前側から見たものの指標になっておりますが、両方あってこそその連携であるので、学校教育課と協議したいと思います。

【市長】

はい、ありがとうございます。他にございませんか。花田委員、お願いします。

【花田委員】

事業計画 10 番と 20 番について、私も三橋委員のおっしゃっていたところが気になっていて、職員が感じていることや満足度の割合ということなのですが、やはり子どもたちや保護者の方の意見・考え方を全部取っ払って、職員の方だけの意見のみになっていうことが気になりました。子ども一人一人の能力を引き出すとともに遊びや生活に通じた学びができているのかどうかというのは、子どもではなかなか判別がつかないので、一方通行にならないために、やはり保護者の人の満足度を若干入れてもいいのかなと思います。事業計画 40 番もそうでしたが、小学校の先生がどう思っているのか、立場が何個か重複して評価しないといけないのではないかと思う部分もあって、事業計画 30 番だと、保護者のアンケートにおけるっていうふうにもきちっと書いてあるので分かりやすいです。

あともう 1 つ、事業計画 50 番について、「適正配置に関する説明会の開催件数」は、保護者や地域住民、関係機関との意思疎通が十分に図れたかどうかの指標にはならないだろうと思いました。一方通行な感じがするので、もう少しひとひねり、もしくはひとプラスあればいいかなと思いました。

【岩本こども未来課長】

確かに花田委員さんおっしゃるように、職員側から見た一方通行っていうことですが、保護者の意見をどう反映させていけるのか、検討したいと思っています。ただ、先日の勉強会の時もお話しさせてもらったかもしれないですけども、今まで、こども未来課で目標を作成し、現場にどれだけ周知できていたかというところが反省点でもあるので、今後現場の先生にしっかりと周知しながら、保護者の意見も反映できるようにしていきたいと思っています。

【吉川こども部副部長兼こども政策課長】

事業計画 50 番について、目標値の 2 番にある説明会の回数、開催件数自体が地元や保護者に対して丁寧な説明をしているということに直接つながらないのではないかということですが、確かにこの回数が多いからといって、丁寧な説明ができているとは限らないということになります。ただ、説明会の回数というものも、丁寧な説明をしたという 1 つの指標にはなるのかなというふうに考えております。

【市長】

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。はい、吉岡委員お願いします。

【吉岡委員】

初めに、樋上教育総務課長がおっしゃった、手持ち資料のオレンジ部分「(1)事業計画・・・」とした「設定した理由・内容等」というのは、アクションプランで掲示して公表して良いという前提でお話させていただいてよろしいですか。

【樋上教育総務課長】

はい、問題ございません。

【吉岡委員】

ありがとうございます。そのうえで、事業計画 40 番について、(2) の理由が本来ならば市民に情報提供しなければいけないところだと思うので、ここは盛り込んでくれていいと思います。勉強会でもお話しさせていただいたのが、数値目標・数値設定した理由が分からないというところで、本来ならば、この 7 年計画の初期値がどういう風に設定したのか、それ以降 7 年計画でどういう風に推進していくのかというのを見えるようにしたらいいというところでしたが、その数値はあえて具体的に出さなくてもいいのかなと思います。事業計画 40 番については、(2) は本来ならば数値目標の設定ではなくて、市民に提供する方針のようなものだと思うので、それは 1 に盛り込むようにしてもらえればなと思います。

事業計画 50 番に関しては、逆に、これはいいなと思っているんですが、あえてここだけ 2 個設定しているので、①のところは再編数が 0 の時もある中で、きちんと説明会を 8 回やっていく、その中でアクションプランの報告のところでは、しっかり丁寧に説明して、満足度向上はこの指標ではあげないんですけども、別のところで市民に報告する形にしていたらやっただけであればやっている価値というのが明示できるかなと思うので、それで進めてもらえればと思います。

【市長】

はい、ありがとうございます。何かコメント、よろしいですか。そうしましたら、今のご意見も参考に、取り入れていただきますように、よろしくお願ひしたいと思います。他に、この部分ではありませんか。はい、ありがとうございました。

それでは続きまして、2 ページの事業計画 60 番から 5 ページの事業計画 180 番までで、ご質問がありましたらお願ひをいたします。三橋委員、お願ひします。

【三橋委員】

ここも 2 つありまして、1 つずつまたお願ひできたらと思います。1 点目は、事業計画 60 番と 100 番についてです。まず、事業計画 60 番で、評価指標が「今まで受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という調査項目に対して、令和 7 年度の檀原市の回答が 21%の子しか「はい」と答えていません。ところが、全国も 26.2%と、本市も低いですが、全国もやはり低いですね、これは。ということは、子供たちが、この質問自体の「課題の解決に向けて云々」という意味を果たして分かっているのかどうかという疑問が一つと、もう一つは、もし実際にちゃんと質問の意味を理解できて回答しているとして、「自分で考え、自分から取り組んでいましたか」と言われて、自信持って「は

い」と言える子は少ないと思います。実際は出来ていても、1年365日、出来ているなんて子はもちろんいないわけで、「はい」とは言わないけど、「どちらかと言えばそうかなあ」と、多分4択の2番目ぐらいを選ぶ子が結構多いんじゃないかなと思います。だから、20%前後だとすごく低いことになってしまい、正しく生徒の実態を反映してないと思いますので、4択の一番上の「はい」と、次の「どちらかと言えばそう思う」という、この2つをもって、評価指標にしたらどうかと思います。事業計画100番もまったく同じ理由で、「ICT機器を使って情報を整理することができると思いますか」についても、さっきと同じ理由で「はい」と言える子はやはり少ないと思うので、これも「どちらかと言えばそう思う」というのも入れたらどうかと思いますが、どうでしょうか。

【鶴田学校教育課長】

事業計画60番の初期値22%が低いのではないかということで、全国の平均値が現在26.2%ということはどこにも明示できないので、確かにこれだけ見ると、橿原市は低いと受け取られかねません。おっしゃるように、自信を持って「はい」と答えられる子というのは少なく、「どちらかと言えばはい」の割合が非常に高いです。そこで、委員がおっしゃったように、「はい」と「どちらかと言えばはい」を合算すると、現在橿原市が69.9%、全国が79%になりますので、初期値として70%と記載することに変更させていただき、最終的には全国の79%を超えるかたちで設定できればと思います。

それから、もう一つの、事業計画100番のICTの分について、18%というのも確かに低く、こちらについても、現在橿原市が17%、全国24%です。全国24%ということが分からず、これだけみると相当低いという風に見えるので、同じように2つ目の項目「どちらかといえばそう思う」を合算すると、橿原市が53%、全国が66%となりますので、こちらもこれに沿った初期値にして、最終的には70%ぐらいを目指すように変更させていただきたいと思います。ありがとうございます。

【三橋委員】

ありがとうございました。それが1点目です。

もう1点が、事業計画130番のいじめ・不登校についてです。この評価指標は、校内サポートルームや虹の広場を利用した児童生徒の割合となっておりますが、実際、不登校の児童生徒で、校内サポートルームや虹の広場以外にも、例えば、スクールカウンセラーに相談している、あるいは、カウンセリングを受けている児童生徒も評価に入れてはどうかと思います。というのは、この項目はこの事業計画に書いてありますように、いわゆる不登校児童生徒に対して、橿原市が実施している事業や施策が、どれぐらいの割合の不登校児童生徒に活用されているか、届いているか、ということを見る評価指標だと思います。スクールカウンセラーを市としても配置をしていただいていますので、市の事業の効果を見るという意味で、このスクールカウンセラーも入れたらどうかというふうに思います。そして、本当はそ

れ以外に、例えば市の事業としていわゆるいじめ不登校対策指導員も市として配置していただいています。それまで入れると、その対策指導員が、どこまでをカウントするかが難しいですね。というのは、いじめ不登校対策指導員というのは、前で担任の先生が授業されていて、個別の支援の必要な子には、そのいじめ不登校対策支援員が横について、前の先生の説明をさらに補足するとか、そういうことをやったり、あるいは、みんなが教室で、例えば数学や英語の授業を受けている時に、別室で個別対応が必要な子どもに対して授業をしたり、そういうことをされていると思います。そうすると、その対象の子どもが限定されている場合もあり、教室の中であれば、こちらは限定しているつもりでも、それ以外の子から質問されればそちらも当然対応しますので、範囲がぼやけてしまいます。そこまでカウントするのは現実的には難しいかなと思うので、ちゃんとカウントのできるサポートルームの活用者、虹の広場の活用者、それからスクールカウンセラーの活用者、この3つを評価指標に入れたらどうかと思いますが、どうでしょうか。

【学校教育課長】

ありがとうございます。今、委員がおっしゃったように、不登校対策指導員は色々な子に関わりますので、なかなかカウントが難しい面がございます。スクールカウンセラーについては、予約等で子どもを把握できています。サポートルームは、虹の広場の利用者と重複する場合もございますが、この数字より、スクールカウンセラーを加えることで、少し高く設定させていただけるかと思っておりますので、市費のスクールカウンセラーについて児童生徒数を加算して、ここに上げていきたいというふうに考えています。

【三橋委員】

ありがとうございます。それで、このカウンセラーも入れてもらえるということですが、その際にちょっと検討をお願いしたいのは、カウンセラーに相談しているけれども、本人が相談している場合もあれば、本人はカウンセラーには会えないけれども、その保護者だけがカウンセラーに相談しているというケースが結構あると思うんです。それをカウントするかどうか、ちょっと検討をお願いしたいと思います。私個人は、保護者だけであっても、市のそういう制度を活用していただいているということでカウントしたらいいかなと思いますが、これは賛否両論なところだと思いますので、ちょっと検討をお願いしたいと思います。

【鶴田学校教育課長】

はい、分かりました。保護者のみの利用をカウントするかどうかは検討させていただきます。

【市長】

他にございませんか。はい、竹内委員お願いします。

【竹内委員】

3点あります。まず、1点目が事業計画110番についてです。この目標の「文化を理解し」というところで、指標が回数になっているというのは当然かなと思うんですけども、最後に「より良くしたい気持ちを育みます」が目標となっているのであれば、回数だけではなく、やはりこの学習を受けた生徒が「樫原を好きになった」とか「もっと地域を大切にしたいと思う気持ちが生まれた」とか、そういった指標も入れていただければいいのではないかと、この目標とその指標というところで、お願いしたいなと思いました。

【鶴田学校教育課長】

より良くしたい気持ちを育む上で、事業回数だけでは測れないのではないかとこのことだと思います。おっしゃる通り、回数を重ねていても、より良くしたい気持ちが高まったかどうかというのは、なかなか測りにくいと思いますので、子どもたちのアンケートを取るか、方法は考えさせていただき、もう一つ評価指標を追加できるかどうかも含めて検討させていただきます。

【市長】

①、②で指標を設定していたところもあるので、アンケートが取れるようであれば、ちょっと一度検討してみただけたらと思います。竹内委員、よろしいですか。

【竹内委員】

はい、ありがとうございます。

2点目が、事業計画130番です。三橋委員もご質問されていた部分ですが、この事業計画のところでは、その評価指標はこれでいいと思うのですが、目標値の中に「いじめ不登校の兆候を早期に発見し、また未然に防止に努めます」というところがあります。また、教育大綱の中の7番にも取組みの中に、不登校の未然防止として行きたくなる学校づくりを中心的な取組みとして進め、その後に支援ということでこの目標が来ていると思うんですけども、せっかくここで未然の防止ということを書かれいのであれば、そこも一つ何か、この指標になるようなところがあればいいのではないかと思います。この相談のサポートができるというのはすごくいいんですけど、このパーセントだけがどんどん上がるというのも、少し悲しいなというのもありましたので、未然に防止するということも考えていただければと思いました。

【鶴田学校教育課長】

ありがとうございます。不登校児童生徒数は年々増加傾向にあります。令和6年度は303人ということで、まだ今後も増えていくことを想定しています。そこで、今年度策定しまし

た不登校対策基本方針に基づいて、校内サポートルーム全校設置であるとか、不登校支援コーディネーターの配置等も同時に行っていくなかで、校内サポートルームで子どもたちがつながっていけば、不登校は未然に防いでいけるというふうに考えているんですけども、いかがでしょうか。

【竹内委員】

それは不登校になってしまった後のサポートではないでしょうか。もう少し何か未然に出来ることはないでしょうか。

【鶴田学校教育課長】

突き詰めていけば、授業改善であるとか学級経営につながっていくわけですけども、そこは本当にベースで当たり前のようにやっていかなければならないところです。不登校の定義は、病気等の理由を除いた年間30日以上欠席となっておりますので、そこに行くまでに防ぐということで、校内サポートルームや虹の広場の利用、スクールカウンセラーのカウンセリングと記載しております。

【竹内委員】

元々捉え方が違ったのかなと思いますので、「未然に防止を務めます」というのが当たり前のことであるのであれば、ここに入れなくてもいいのかなと。その後のサポートだけを目標にしていただければ、下の指標とか、三橋委員がおっしゃられた目標値とか、そういったところにつながってくるのではないかと思います。

【鶴田学校教育課長】

目標の方を訂正させてください。ありがとうございます。

【竹内委員】

あともう1点です。事業計画160番についてです。トイレの洋式化の率なんですけれども、これは10年というこれだけの長期間で100%ということですが、もっと早く達成できるような計画ではなく、もうこれは10年間かかってしまうのでしょうか。

【樋上教育総務課長】

こちらにつきましては、教育費の財政の問題もありますので、計画的に各小学校2巡で終わらせたいというところで、毎年約1億円程度の予算をつけていただけるということを前提に、10年だと考えております。

【竹内委員】

橿原市の学校施設設備基本計画が2016年度頃に制定されていましたが、この設備基本計画から10年ということですか。

【樋上教育総務課長】

その計画に謳われているものではなく、こちらに記載しているとおり、洋式化については保護者からの要望等も高いので力を入れていきたいと考えておりまして、令和8年度を初年度とし、10年間で100%目指すという形になっております。

【市長】

10年が長いと思われるのは当たり前のことだと思っていますし、我々も当然そう思っています。課長からの説明を擁護するわけではないですが、PTAさんからは、とにかく各校のせめて洋式化率50%を超えてほしいという強い要望がありました。7年度中に各校50%は超え、各校少なくとも2つに1つは、PTAからの強い要望にはある一定目標値を超えさせていただいたと。全体で見ると洋式化率が60数%ぐらいまでになっています。当然、委員おっしゃられるように、早く100%を達成するということを目指しているんですけども、ちょっとここ1年、2年は、かなり50%洋式化に力を入れてきましたので、予算のこともありますので少し他のことにも充当しながらも、ただ100%を目指すということを考えたときに、10年ぐらいかかるという計画になってしまいました。ただ、少しでも早く100%を達成できるような工夫は、これからもしていけないといけないと思っていますし、学校再編の問題もありますので、再編計画を見ながら、無駄な洋式化工事にならないようにしていけないといけないというのもあって、色々考えると、今のところ計画的には10年かかるかな、というふうになったということなんです。

【竹内委員】

ありがとうございます。そのお話を伺って、保護者の方から50%を超えてほしいという要望があったということであれば、それで私はいいかなと思います。

【市長】

当然100%になることを祈っておられると思いますけれども、とりあえずは50%を超えてほしいという要望が強かったんです。

【竹内委員】

分かりました。ありがとうございます。

【市長】

他にご意見ございますか。花田委員、お願いします。

【花田委員】

私も何点かありまして、先ほど三橋委員がおっしゃった事業計画 60 番や事業計画 100 番など、生徒に対してのアンケートで目標値を色々出しているというのは納得できました。あとは事業計画 120 番についても、副読本の配布を行って職員の資質向上を目指しているから、受講者の理解度アンケートが目標値につながっていくというのがすごく分かります。ただ、先ほどと似たような感じになってしまいますが、例えば、事業計画 80 番の「小中学生の段階から多様な文化に触れさせ、それぞれの違いや良い点を学ぶことで、多様性を認め合う豊かな心を育みます。」という目標に対して、評価指標が「小中学校で、異文化交流(オンライン等で)授業を実施した学校数」、事業計画 90 番の「授業で、一人 1 台の端末にインストールされている学習支援ソフトをすべての児童生徒が学びを深めることができるように活用します。」という目標に対して、評価指標が「学習支援ソフトの市内小中学校の活用率」だから ICT で学習支援のソフトを使えばそれでいいというふうになってしまっていて、少しずれているように感じます。郷土愛に関しても、より良くしたい気持ちを育むために講師を呼んで授業を行った、その回数をこなせばいいんだというふうになってしまっています。きっかけとしてはすごく分かるので、入り口とか、何かそういう一言があればいいのになぁと感じてしまっている部分があります。トイレに関しても、老朽化の改善、質的改善、バリアフリー、環境配慮など色々書かれているのに、結局トイレの洋式化だけかと若干思っていますので、その中でも「今回は洋式化に力を入れています」とか、少し加えておいてもらった方がいいのではないかと思います。

【鶴田学校教育課長】

目標と評価指標が合っていないのではないかというご意見かと思えます。事業計画 80 番ですと、「豊かな心を育みます」という目標に対して、授業をした学校数だけが増えればそれで測れるのかということですが、現在実施している学校が非常に少なく、まずはそこを増やし、最終的に全校実施を目指すという目標にさせていただいております。ですから、実施していなかったら豊かな心も育まないだろうということで、そこを広げていくということも第一の目標とさせていただいております。委員がおっしゃるように、「入り口として」という表現を入れた方がいいと考えますので、変えさせていただければと思います。

【市長】

はい。他のところも、もう少し花田委員がおっしゃられたような表現やニュアンスで変えられるところがあれば、検討していただきたいと思えます。

続けて、花田委員お願いします。

【花田委員】

はい、2点目なのですが、事業計画140番の評価指標が「地域や学校による安全点検で抽出された危険箇所における安全対策の割合」ということで、毎年危険箇所が抽出されて、そのうちの改善された割合が、この目標値だと思います。例えば、極端な話ですが、去年は抽出されたのが100箇所、そのうちの20%、つまり20箇所改善できたと、でも、今年は500箇所出て、そのうちの20%、要するに100箇所改善されましたとなると、残りの400箇所は改善されていないので、去年よりもかなり増えているのではないかと思うんですが、抽出された危険箇所の数っていうのは、決まっていたりするんですかね。

【鶴田学校教育課長】

こちらの件数につきましては、交通安全プログラムということで、3年に1回、学校地域等で校区内の危険箇所をピックアップし報告いただいて、路面に赤いペイントをしている所などがそれに当たるんですけども、危険箇所の改善を実施しています。順番に工事していき最終的には100に近づくのですが、それを現在84%程度ですので、そのパーセンテージを年々上げていくことで早期に改善に努めたいっていうことで目標値を設定しています。

【市長】

そもそもその母数の考え方を、花田委員は聞いておられたのかなと思います。どうやって点検して、総数が何箇所あってみたいなのが、毎年その母数が変わるのではないかと。同じ割合でも、母数が違えば改善できた箇所の数が全然違うのではないかとこのところが疑問点になるということですが、そんなに数は変わってないんですかね。

【鶴田学校教育課長】

そんなに変わらないですね。点検については、全校区を3つに分けて、3年に1回実施しています。

【市長】

毎年どこかの校区で実施しているということですね。榎原市を3つのエリアに分けて、3年に1回点検していると。3つのエリアの総数が例えば100としたら、その数がそこまで変動はなく、だからその100箇所のうち何箇所改善できたかということを目指して出して、現状84%ぐらいに達しているということですか。

【鶴田学校教育課長】

はい、そうです。

【花田委員】

ということは、改善してもまた同じような数が増えてしまうということですか。

【鶴田学校教育課長】

そうですね。3年後にまた同じ校区の点検をするのですが、その時には相当数が挙げられていまして、以前改善したところの路面の表示が薄れているなども含まれるんですが、そういうところも改善しつつ、ここ数年で見ているとそんなに減っている傾向なく、毎年相当数が出されています。

【花田委員】

すみません。ではこの目標値は3年区切りになるはずですよ。例えば令和8年度、9年度、10年度で、その100箇所あったところが、85箇所、86箇所、87箇所として、3年間でこれだけ修正されました。そして11年度に新しく危険箇所が出てきましたとなると、また変わるはずですよ。

【市長】

それか、この85%、86%と書いてあるけど、ここを3つの枠にして、Aブロック、Bブロック、Cブロックごとにパーセンテージを入れていくか、ですね。

【鶴田学校教育課長】

1サイクル3年だからということですね。

【市長】

3年に1回調査して、数も変更があるにもかかわらず、全体で80何%という、数の設定がなかなかちょっと難しいような気が確かにしますね。何となく分かるんですけど、細かく考えてみればちょっとおかしいかなと。

【鶴田学校教育課長】

検討させていただきます。

【吉岡委員】

3年に1回調査しているということを、市民の方はご存知ですか。

【鶴田学校教育課長】

PTAの方についてはご存知だと思います。3年に1回しか上げてくださいというふうに学校から依頼しないので。ただ、市民の方がご存知かというとなかなかそうではなくて、実際、その年度に点検を実施しない学校からも要望が上がってきます。そこは、予算の範囲内で可能な限り対応させていただいているというような状況です。3年に1回は上げてくださ

いというふうに投げかけをしています。

【吉岡委員】

もし市民の方に周知したら、3年に1度ではなく毎年やってほしいという意見が出てくると思いますので、伝えたいという思いはあれど、あえて言うことがいいのかどうかというところですね。

【市長】

学校教育課長、検討をよろしく願いいたします。それでは花田委員、続けてよろしくお願いします。

【花田委員】

これが今更言うことではないと思うんですけど、自分の中で最近ちょっと腑に落ちないなと思っている部分が、「いじめ」と「不登校」という言葉です。まず不登校に関して言いますと、どうしても学校に登校することが善であって、家でいることが悪であるというふうなイメージが、やはり昭和の登校拒否という言葉以来からあります。今色々な言葉が日本出てきていますよね。多様な学びというのを中心で、ユニバスであったりとか、スクールノマドであったりとか、オルタナティブ教育とか、ちょっと前向きな言葉で表現してあげた方がいいのではないかと考えています。今、非認知能力で自尊心を育もうと言っている割には、ずっと不登校という言葉でマイナス、後ろ向きのイメージを引きずったままの言葉を、いつまでも使っているなというふうに思いました。もう一つ、いじめについてですが、いじめは犯罪ですもんね。いじめという言葉を使うから、去年もそうですけど、校内の暴力の画像、動画等が夜中に回って、取り返しの使わないようなことになるというようなことが起こってしまうので、いじめではなくて、例えば校内犯罪とか校内障害など、心のこともあるのでなんとも言えないですが、そういうので警告を鳴らすというか、これをやると犯罪だよと。いじめって軽くいじりとか、関西では独特な文化もあったりするので、遊んであげているだけとかって言葉で片付けられないようにすると、それこそいじめの兆候を早期に発見することができたり、予防できたりするのかなと思います。不登校も、不登校とは言わずに、ユニバスとか、市として言い方を色々考えるとというのが今後の課題だと思います。

【市長】

はい、ありがとうございます。国が示している動向などもあればよく確認をしていただいて、確かに花田委員がおっしゃることもなるほどと思うところがあるので、できるものなのかどうなのかを含めてその書きぶりをもう一度検討していただければと思います。後ろ向きの意味の文言をできるだけ使わないようにする、みたいなことも必要なのかもしれないなど。そういう考えのもとで、色々な調査をしてもらって、書き換えられるものなら書き換

えていただけたらと思います。

他にございませんか。吉岡委員お願いします。

【吉岡委員】

事業計画 70 番について、予算も組んだ検証モデル 2 校の体育指導員の派遣というところは、書いてほしいです。その上で、7 年計画ではないんですけども、年度ごとに状況を見て体力強化を図っていくというのは、(1) のところに「目指します」と記載があるだけなので、具体案を書いてほしいです。続いて、事業計画 80 番についてご質問なのですが、このオンライン授業というのは何ですか。

【鶴田学校教育課長】

こちらは、海外の教室と市内の学校の教室と、オンラインで繋いで交流するような授業形態です。今、ALT の委託業者が主催で、年に 1 校、明日も実施するんですが、お互いの国の文化を紹介するなどして、英語でコミュニケーションを図るといような授業を展開しています。そういった活動をする学校を増やしていくという目標になっています。

【吉岡委員】

何の教科の授業で、年に何回実施するんですか。

【鶴田学校教育課長】

教科は外国語になります。年間 1 回ないし 2 回の実施になります。割とコストがかかるそうなので、なかなか実施が難しいようです。以前には JICA の協力も得て、何校か交流もしていましたが、なかなか展開が難しい事業になっています。

【吉岡委員】

これ、年 1 回の実施で、7 年後によく全校で実施できるようにするという目標でいいですか。その内容と成果をどう考えるのかで、この目標設定だけもう一度ご検討いただけますか。7 年後に 21 回できるようにしてほしいとか、そういう話ではないのですが、考えていただき、(1) のところに何かしら記載が欲しいです。今実施している 3 校がすごく何かそこに特化されていて、残り 18 校が全くされていないみたいな、差別というか区別というか、損と思われないようにしてほしいです。よろしくをお願いします。

続いて、事業計画 110 番です。(1) は点に変えてくれているんですけど、評価指標が 1 箇所カンマになっているので変えてください。そして、事業計画 160 番について、先ほどのご説明で理解したので、まず当初目標の洋式化率 50%を達成したことをあえてここに書いてほしいです。その上で、10 年後 100%になることを目指しますと、計画的に進めますというふうに書いてもらえば、市民が理解できると思います。

【市長】

はい、ありがとうございます。いくつかご意見をいただいたと思いますので、反映できるように検討・修正をお願いしたいと思います。

それでは、続いて、6ページの事業計画190番から事業計画220番までで、ご意見ございますか。

【竹内委員】

事業計画190番について、保護者満足度のところですけども、95%に達しているのに、また下げて90%に設定されています。これは、95%になった時は突発的な何かがあったため、今回90%に下げたということなのでしょうか。

【藤井こども発達支援課長】

令和3年度の85%から始まりまして、4年度83%、5年度87%というかたちで、ちょっと波がありますので、一旦平均値ではないですけども90%あたりからという設定にしております。6年度だけが95%を超えましたが、同じような事業を行っておりますので、継続的な数値にさせてもらっております。

【市長】

はい、他にいかがでしょうか。吉岡委員お願いします。

【吉岡委員】

同じところで、令和11年度に95%になるという理由は何ですか。

【藤井こども発達支援課長】

3年で一区切りとさせていただいたようなイメージなんですけれども、令和3年度から6年度までの3年ほどで95%達成しましたので、同じように3年後の令和11年度から95%を超えられるような内容をずっと継続できたということで設定させていただきました。

【市長】

はい、ありがとうございます。他にないようでしたら、続いて、7ページの事業計画230番から事業計画260番までで、ご意見ございますか。三橋委員お願いします。

【三橋委員】

事業番号230番についてです。別でいただいた資料を見させていただきまして、先日の教育委員会議を受けて再度検討していただいたようでどうもありがとうございます。ただ、

依然として問題点はやはりあると思っております。評価指標が2つありますが、1つ目は全国学力学習調査の「学校に行くのは楽しいと思えますか」を評価指標にしていますが、この数字は児童生徒支援教員を配置している学校も配置していない学校も、両方合わせた数字だと思うんです。これは支援教員の配置の効果を見たいという項目だと思いますので、配置校だけでいいのではないかなと思っておりますが、いかがでしょうか。

【宮田人権・地域教育課長】

これについては、市単位で出すようにということで、区別して出すのは憚られるためこのかたちにさせていただいております。

【三橋委員】

学校単独じゃなくて、配置校が小中学校で10校あるので、その10校の平均値を出すというのはやはり問題があるんですか。

【宮田人権・地域教育課長】

そのように判断しております。

【三橋委員】

これは、あまりこの数字を出す意味がないなと思えます。先ほど言ったように、配置していない学校も入っているわけです。配置していない学校が何か別の事業を実施した場合でも、この数値は上がります。別の事業で数値が上がっているのに、支援教員の成果とは言えないと思うのですが。

【宮田人権・地域教育課長】

目標のところですね、もちろん児童生徒支援というのは、技量を高めるというのがあるんですが、ここでは人権教育の充実を図るところで、あくまでも全体的なマクロと言いますか、全体的な視点でこの大きな方針の人権教育の充実推進というところを、まずはこの評価指標で示させていただきたいと考えております。そして、まだ話は出ていないんですが、評価指標2のアンケート調査については、実際のところまだほとんど実施しておりません。できることからやっていくということで、対象数は非常に少ないんですが、児童生徒支援教員と直接関わりのある子どもたちに対して、アンケートを既に実施しているところに関してはその結果を抽出し、この指標に近いものを割合として、マクロとミクロの両方で指標としてさせていただきたいと思っております。

【三橋委員】

やはり少し無理があると思えます。「学校に行くのは楽しいと思えますか」ですけど、も

し「はい」と答えたとして、それは支援教員の成果だけではないと思います。学校全体の学級担任をはじめ、色々な関わりの中の成果であって、これを支援教員の成果というのは無理があるのではないかと思います。それからもう1点は今お話されましたが、目標には児童生徒支援教員の技量を高めて、人権教育の充実し、子どもたちの自尊感情を高め、いじめのないなかま集団づくりを進めると書かれているのに、評価指標2が「学習に前向きに取り組めるようになった」と回答した割合というのは、目標と評価指標が合っていないように思いますが、いかがでしょうか。先ほど言ったように、これは支援教員の配置の効果を見たいということですよ。支援教員の配置の目的というのは3つあって聞いています。1つ目は人権教育の推進、2つ目は多様な教育ニーズへの対応、3つ目は配置した教員の働き方改革に寄与すると、この3つだと思います。だから、この3つについて評価をしなければいけないと思います。

【宮田人権・地域教育課長】

検討させていただきます。

【市長】

ぜひ検討していただきたいと思います。はい、副局長お願いします。

【広瀬教育委員会事務局副局長兼子ども総合支援センター長】

少し補足をさせていただきたいと思います。まず1点目は、人権業務の推進ということを中心に検討し、評価指標を「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問項目に対する「はい」の回答割合ということで、人権教育の推進を図らせていただければどうかと思っています。そして、2つ目の評価指標については、児童生徒支援教員を配置させていただくことで、より学校として運営が良くなるのかなという部分で、困っておられる子どもたちがどれだけ前向きに学習に取り組めるかという指標も入れさせていただきました。委員さんがおっしゃった3つの目標の中の2つを取ることによって、人権教育の推進につながっていければというふうに思っております。今、課長も説明しましたとおり、目標と合っていない部分もあるかもしれませんので、検討し書き直しをさせていただければと思っております。

【市長】

よく確認してほしいと思います。事業計画、目標、評価指標がちゃんと合っているかどうか、何を評価として求めていくのか、三橋委員がおっしゃったような観点とうまく合っているかどうか、よく検討してほしいと思います。

続けて、三橋委員お願いします。

【三橋委員】

新しくいただいた資料の真ん中あたりに、赤字「4人に1人は高めきれないこともあった」と書かれています。これはどういう意味ですか。

【宮田人権・地域教育課長】

これについては、その対象の子どもたちのうち、残念ながら前向きになってもらえていない子もいるという実態があるということを書かせていただいています。

【三橋委員】

確かに、今すぐ全員に前向きになってもらうというのはできないと思いますが、4人に1人の根拠がないと思うので、この数字は出さない方がいいのではないのでしょうか。

【宮田人権・地域教育課長】

削除させていただきます。

【広瀬教育委員会事務局副局長兼子ども総合支援センター長】

4人に1人という部分はイメージで書かせていただいております。不適切だと考えております。ただ、思いとしての一つの基準は、今75%程度あると思いますので、それを根拠にこの目標2の方を10%程度上げたいという部分がございますので、85%とさせていただいたということです。この4人に1人という部分は消させていただき、思いとしては感じていただければというふうに思っております。

【三橋委員】

それでいいと思いますが、今実際に働いておられる先生方に、一度お話を聞いてみてはどうでしょうか。学校によって、多少違いはあると思いますが、大体の線で多分、数字が出ると思います。

それをもって、初年度の値にされてはどうかと思います。

【市長】

はい、よろしく願いいたします。他に、いかがでしょうか。吉岡委員お願いします。

【吉岡委員】

同じところについて追加でお願いします。目標値として85%を突破できるようにというのはいいんですが、実務的に何を取り組んだかということはやはりアクションプランの報告書に書いてほしいです。追加の予算を仮に上げたとしても、支援教員がどのくらい必要かというのも、一度実務ベースで上げてもらって、予算の提案はしてほしいと思います。それが通るか通らないかは別として、やはり実務として必要だということには市に上げてほし

いです。その上で何ができるかというところで、この 85%を突破するっていう目標に向けて実施していただければと思います。

【市長】

よろしくお願いたします。それでは他にないようですので、続いて 8 ページの事業計画 270 番から 9 ページの事業計画 340 番まででご意見はございませんか。竹内委員お願いします。

【竹内委員】

事業計画 280 番について、相談件数というのは問題の解消につながった件数なのでしょう。ただ単に相談件数を一律に 25 件としているのか、まずそのところを伺いたいと思います。

【宮田人権・地域教育課長】

あくまでも相談件数そのものでございます。

【竹内委員】

この 25 件というのは今までの過去の件数からということで、目標に「問題の解消につながります」と書いているので、どのくらい解消できたかというような、実際的なものにつなげていってほしいと思います。

【宮田人権・地域教育課長】

こちらは、青少年指導員という教員 OB が相談を受けているという状況でして、なかなかその場で解消するというのではなく、奈良県も含めて庁内外の関係部署につなぐということが多いです。前回の第 2 期教育大綱アクションプランでも、最初は解消できたパーセンテージを記載するとしていましたが、それが実際できないということで外させていただいたという経緯がありました。今それに引き続いてこのようなかたちにさせていただいている次第です

【竹内委員】

分かりました。非常に難しいということなので、そうしましたら、解決の解消につながったというような満足度を指標にさせていただいてもいいのかなと思います。

続いて、事業計画 290 番と 300 番についてです。ここでの目標値が、少子化による減少傾向ということで数字が減っています。少子化になればこのような数値になるのは分かるんですけども、それであれば、量ではなくて質とかというような目標値に変えていかれてもいいのではないかと思います。いかがでしょうか。

【西浦生涯学習課長】

おっしゃるとおりで、質あるいは仕組み・手法をこれから変えていかなければいけないところだと、点検と評価の中でも先生方がおっしゃっておられました。ZOOM などを使ってオンラインで、子どもを対象に何か心の豊かさを育むような機会を作ってはどうかというようなこともありましたので、そういったご意見を踏まえながらも、時代の流れに合わせた設定を検討したいと思います。

【市長】

他にございませんか。はい、花田委員。

【花田委員】

先ほどの事業計画 280 番について、問題の解決を図るといふふうを書いてあるんですけど、「問題解決への糸口を支援します」とか、そういう言い方になるのかなと思いました。またそのあたりも考えていただけたらなと思います。

続いて、事業計画 290 番について、目標に「青少年の健全育成」と書いてありますが、ここには青年は関係ないんですね。少年だけですか。この評価指数が子どもの述べ参加者数とありますが、青少年となると青年も入りますので、「若年者」など別の言葉に置き換えてもいいのかなと思っています。

【宮田人権・地域教育課長】

事業計画 280 番について、書き方を改善させていただきたいと思います。

【西浦生涯学習課長】

青年と少年を含めた言い方なのですが、両方とも記載した方がよろしいでしょうか。

【花田委員】

それであれば、評価指数の「子どもの延べ人数」を削除し、「参加者数」だけでいいのではないかと思います。先ほど竹内委員からも目標値の設定の仕方についてご質問があったので、あわせて検討いただければと思います。

続けて、事業計画 310 番について、日本語教室や異文化に触れる歴史文化講座等を開催するという計画ですよね。開催するという計画なのに、なぜ満足度が評価指標になっているのかと思いました。もし、教室を開催して、異文化に触れることに対しての喜びを感じさせるとか、興味を持つきっかけを作るとか、そういう計画であれば満足度になると思いますが、外国人を含む幅広い年齢層の市民が気軽に参加できる学習機会の場を提供するだけであれば、満足度ではなく、単純に開催した回数でいいのではないかと思います。

【高井中央公民館長】

幅広い市民の方に満足していただける講座等を開催するという事で、アンケートを取らせていただき、その満足度の割合を指標とさせていただきました。

【花田委員】

そうしましたら、「市民に喜んでいただける講座を開催する」とか、少し追記していただいた方がいいのではないかと思います。

【市長】

満足度を評価指標とするならば、事業計画や目標に少し付け加えた方がいいのではないかと思います。

【高井中央公民館長】

付け加えさせていただきます。

【市長】

お願いします。他にご意見はございませんか。吉岡委員お願いします。

【吉岡委員】

事業計画 290 番からなのですが、事業計画の（1）の文章が他の課に比べるとかなり短いので、この後継者不足や少子化という状況はあれど、今後どういうことをしていくか記載してほしいです。あと、これから課の名前が変わって実施していくところにつながっていくと思うので、今後色々な事業を戦略的に展開していきますという文章を入れてもらった上で、来年度以降になるのかもしれませんが、具体的な案を予算として出して、実務で動いてもらえるようにしていただければと思います。

【西浦生涯学習課長】

ありがとうございます。事業計画 320 番については、次のカテゴリー「文化・芸術の推進」に入れるべきではないかと考えております。もともと中央公民館の事業でしたので「生涯学習・社会教育」に入っているんですが、今後事務局と調整をさせていただきます。

【市長】

よろしく願いいたします。それでは、最後 10 ページの事業計画 350 番から事業計画 380 番までで、ご意見ございますか。吉岡委員お願いします。

【吉岡委員】

事業計画 350 番と 360 番について、(1) の文言が、市民に情報提供するものとしては言葉足らずだと思いますので、コロナワクチン接種会場だったということはもちろん前提としてあるが、その上で何を実施していくかというのをきちんと書いていただきたいです。パブリックコメントでも厳しいご意見があったと思うので、どういう目的で実施しているのかも含めて文章の内容を変えていただければと思います。

【西浦生涯学習課長】

承知いたしました。

【市長】

よろしく願いいたします。続けて、竹内委員お願いします。

【竹内委員】

同じところで、事業計画 360 番についてです。機会を提供するという内容なのに、席数に対する入場者数の割合が評価指標になっているので、公演回数のパーセントに変えるなど、ここも考えていただきたいと思います。

そして、事業計画 380 番について、以前にもお伝えしたと思うんですけども、やはり魅力のある図書館を目指すときに、貸し出し数というのも一つの指標にはなっていると思います。下の方に日本図書館協会のことも書かれているので、この冊数はそれでいいんですけども、やはり魅力のあるということは、来館者数が増えるとか、もう少しこのところも考えていただければと思います。ただ冊数だけであれば、一部の人が大量に本を借りているだけとか、来るけれども調べ物に來ただけで本は借りないということもありますので、少しこれも考えていただければなと思います。

【西浦生涯学習課長】

事業計画 360 番について、人気の度合いということではからせていただいております。これから色々なことを実施していかなければならないと思うんですけども、その数値として表すというのが、今のところこれしか浮かばないなということでした。

【市長】

より市民にとって魅力的な事業を推進したいということで、例えばロマンピアホールで 800 人の目標でそのうち何人入ったか、500 人の設定だったらそのうち何人入ったかということをパーセンテージでここに示したいということですね。竹内委員がおっしゃったのは回数ですよ。

【竹内委員】

ロマントピアホールがどれぐらい稼働しているのかということですね。人気のある公演だと人も入りますよね。ただそれが年 1 回だけになるのか、やはり多様なジャンルの公演を行い、様々な芸術の鑑賞の機会を提供すると書いているので、回数ではどうなのかなと思いました。

【西浦生涯学習課長】

そうしましたら、及第点を設けて、その及第点をクリアしたのが何回あったかというような指標にした方がいいでしょうか。

【市長】

ロマントピアホールが何回使われたかという目標を設定して、それに対しての開催回数で割合を出し指標とした方がいいのではないかと、よりロマントピアホールを活用してもらった方がいいのではないかとのご意見でしたね。

【西浦生涯学習課長】

ホールの利用の形態自体は、全てが音楽イベントとか落語というわけではなく、色々な会社の大きな総会や説明会などにも利用されます。いわゆる社会的行事にも利用されるので、榎原市が企画をしたイベントやコンサートだけの数字がここに載っています。

【竹内委員】

事業計画にも目標にもそのように書いているかと思います。あまりにも万葉ホールがいつも静かなので、もう少し活気ある場所になればなと思い、回数を目標にしたらどうなのかなというのが一つの案です。

【市長】

できるだけ活用するということからすると、どんな指標の設定にするのがいいのかということですね。今の内容だと、たった 1 回だけの実施でも入場者数が多かったらそれが指標になるのかということになるので、できるだけ 1 年間通じてたくさん使っていただけるようにするための目標値を設定するのがいいのか、現実を考えたときに色々あると思いますので、検討していただきたいと思います。

【西浦生涯学習課長】

もしかするとこのままになるかもしれませんが、一度検討させていただければと思います。

【市長】

よろしく申し上げます。はい、吉岡委員。

【吉岡委員】

先ほどと同じことなんですけど、今の予算上できることって限られていると思いますが、これから課の名前が変わり、生涯に渡って学び続けることが必要だと言われている以上、そこは「考えていきます」という文言を入れてほしいです。そして、やはり実務として何ができるかというのは予算で上げてほしいです。そこを市民に対して明示することで、現実問題今何かできるわけではないので数値目標を変えなくてもいいと思うんですけど、それを来年、何かできたときに数字を変えますと言ってしまうと、それは皆さんの努力の結果だと思うので、まずその文言だけ入れてほしいです。

【市長】

ぜひ申し上げます。それでは先ほどの竹内委員の図書館に関するご意見について、担当課から申し上げます。

【浅田図書館長】

今回、指標を一人当たりの貸し出し数とさせていただきました。委員がおっしゃるように、確かに図書館に来られて、資料だけを見て帰られる方もたくさんおられ、一人の方がたくさん借りられる場合もあります。ただ、図書館としては、たくさんの人に来ていただき、せっかく予算をつけていただいた資料を見たり、借りたりしていただきたいと思っております。今の貸出冊数が全国の平均値に達していないので、まずその冊数に達するようにしていきたいということで指標させていただきました。確かに来館者数自体を増やしていきたいという思いもありますが、目に見える形で数値化しようと思うと冊数しか思いつきませんでしたのでこのようなかたちになっておりますが、他の指標も検討させていただければと思います。

【竹内委員】

ありがとうございます。以前勉強会の時に、吉岡委員が図書館に関しての指標も何パターンか出していらっしゃったと思いますので、その部分も含めて検討いただくのも一つかと思えます。よろしく申し上げます。

【市長】

はい、ありがとうございます。他にご意見がないようでしたら、これで終了とさせていただきます。時間配分が上手くいかず、慌ただしくなってしまう申し訳なかったです。いただいた意見を参考に、修正できるものは修正させていただきたいと思っておりますので、よく検討し

たいというふうに思います。

全体的な点で何かご意見はございますか。はい、竹内委員お願いします。

【竹内委員】

教育大綱のところなんですけれども、市長が冒頭に「子どものための」とおっしゃっていたと思うんです。子どもに向けての資料というのはあるのでしょうか。そういうのが他の市では出ていましたので、検討できる機会があればと思って提案させていただきました。これはどちらかというとな大人が読むものなので、例えば PDF 1 枚で子どもに分かる言葉で書いていたものが他の市ではあると思うのですが。

【事務局】

今年度、「総合計画」と「日本国はじまりの地 未来戦略」というものを作りまして、その中学生版も作っております。その中の 1 ページが教育大綱に関する内容となっており、中学生の皆様に見ていただけるような内容で公表させていただきたいと考えております。市民の皆様に向けては、広報誌にも掲載をさせていただきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

【市長】

中学生だけに限らず、できるだけ子どもも分かりやすいような紙面を作っていただいて配布するみたいなことができたらいいかもかもしれません。小学生にも、低学年はちょっと分からないかもしれませんが、そこはちょっと工夫してほしいなと思います。

他に全体を通してのご意見はございますか。教育長お願いします。

【吉田教育長】

ありがとうございます。皆様からの色々なご意見を生かさせていただきます。竹内委員からありました不登校についてですが、1 個は支援体制、1 個は未然防止と、私から議会答弁でも学校教育の指導方針でも、やはり未然防止にも力を入れたいと常に訴えております。例えば、分かりやすい授業、楽しい授業、楽しい学級・学校を繋ぐのが大事だと、こういったことを常々申し上げますので、先ほど課長からもありましたが、その辺りにまた盛り込ませていただきたいと思います。教員には働き方改革、ただ子どもにはしっかりと向き合ってほしいと言っていますので、未然防止のところはしっかりと盛り込んでいきたいと思っています。

【市長】

ありがとうございます。それでは、他に意見がないようですので、これで終わりたいと思います。ちなみに、意見がなかった計画番号については、修正なしということできさせていた

だきますのでご了解いただきますようお願いいたします。

修正したアクションプランにつきましては、後日委員の皆様へ送付いたします。また届きましたらご確認をお願いしたいと思います。この総合教育会議をもって、第3期樫原市教育大綱の策定も終えることができました。この場をお借りし、改めて御礼を申し上げたいと思います。絵に描いた餅にならないように、これをしっかりと実行していく、アクションプランも含めてですけれども、いただいた意見をもとに修正したアクションプランに則ってしっかりと教育行政を進めていくということで、よろしくようお願い申し上げます。それでは、事務局に進行を返したいと思います。

8. 閉会